

Lecture 授業No.92 教科書P.148～

T.Q.「ホッブズとロック、
それぞれの社会契約説の違いとは？」

向出 研司：石川県立寺井高等学校
地歴公民科教諭

直前予習 T. A. キーワード確認

教科書 P.148・149

T.Q. 「ホッブズとロック、
それぞれの社会契約説の違いとは？」

1. フランシス＝ベーコン
2. グロティウス
3. 国家主権
4. 反抗権
5. 人民主権

クリックで全て



今日の授業ラインナップ。

1. ホッブズの社会契約説は「国家主権」
2. ロックの社会契約説は「国民主権」
3. 啓蒙思想（ルソーなど）と経済学

T.Q.「ホッブズとロック、それぞれの社会契約説の違いとは？」 教科書P.148～

哲:(イギリス) **経験論** フランシス＝ベーコン

VS

(大陸) **合理論** デカルト(仏) ※1

→ **カント**(独)が総合

③ **社会契約説**

base: **グロティウス**(蘭)の自然法思想

...全ての人には自由や平等の権利を持っている ※2

(1) **ホッブズ**(英)『**リヴァイアサン**』...国家(国王)主権

__自然状態は「万人の万人に対する闘い」(性悪説) ※3

∴自然権の全てを政府に譲渡

(2) **ロック**(英)

__自然状態は平和と秩序(性善説) but 不十分

∴自然権の一部を政府に信託 ∴国民主権

1/2枚目のスライドはここまで!

cf. 自然状態は平和と秩序(性善説) but 不十分
∴ 自然権の一部を政府に信託

——— [ここから](#)

反抗(革命)権あり→ 名誉革命(1688~89)を支持 [※4](#)

④ 啓蒙思想...18C、仏

base: [デイドロ](#)とダランベール 『百科全書』 [※5](#)

(1) [ヴォルテール](#)

(2) [モンテスキュー](#) __ 三権分立 [※6](#)

(3) [ルソー](#) 『社会契約論』...私有財産制を批判 [※7](#)

⑤ 経済学

base: [ケネー](#)(仏)の重農主義 cf. [レッセ=フェール](#)(なすにまかせよ)

→ [アダム=スミス](#)(英)の古典派(自由主義)経済学

『国富論』...「神の見えざる手」 [※8](#)

[最後のスライドはここまで!](#)

[※T. A. まとめスライドへ](#)

T.Q.「ホブズとロック、それぞれの社会契約説の違いとは？」教科書P.148~

B 帰納法と演繹法



知は力なり

理料的な
ベーコンの
帰納法
(実験・観察
を重視)

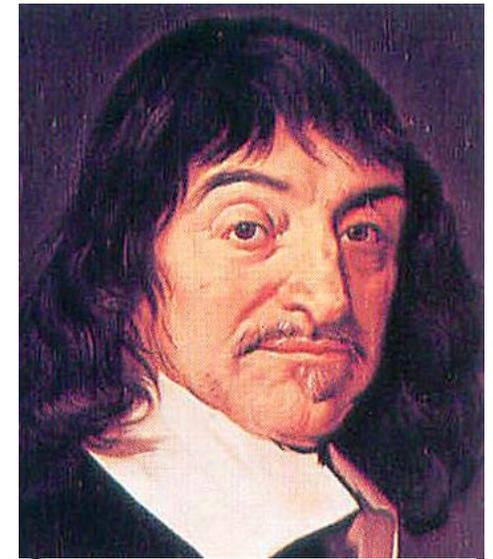


↑ F.ベーコン

Q1. どちらが**理料的・数学的**？

Q2. どちらが**ベーコン・デカルト**？

クリックでA.



↑ デカルト

我思う、ゆえに我あり

数学的な
デカルトの
演繹法
(推理・論証
を重視)

※1

グロティウス (1583~1645)

※2

— 天才青年が育んだ国際法の夢 —

クリック: **三十年戦争**とグロティウス

15歳の時フランスに派遣され、仏王安リ4世から「オランダの奇跡」と讃えられたグロティウスは、16歳で弁護士となるが、外交官としても優れた手腕を發揮し、『海洋自由論』を著すなどして祖国オランダの海上活動を支えた。

その後政争により祖国を追われたが、三十年戦争の惨禍の中で『戦争と平和の法』を著し、自然法の原理に基づく国際法秩序の確立を訴えた。「国際法の祖」「近代自然法の父」とよばれる。

1583	デルフトに生まれる
1598	フランス、ユグノー戦争終結 オランダ使節団の随員として渡仏(15歳)
1609	オランダ独立戦争終結 『海洋自由論』執筆
1618	ドイツ、三十年戦争勃発
1621	オランダを脱出 → 仏王ルイ13世の下で活動
1625	『戦争と平和の法』完成
1635	駐仏スウェーデン大使となる
1645	没



① デルフト新教会前広場のグロティウス像(オランダ)



←『リヴァイアサン』の口
絵 国王の中に多くの国民が描かれている。これは、「万人の万人に対する闘争」状態から国民を保護するために、国民全員から自然権の譲渡じょうとを受けた絶対主権者(王)を示している。

クリック：
多くの国民で構成されている
絶対君主 = 王の身体

※4

「ライバル世界史」

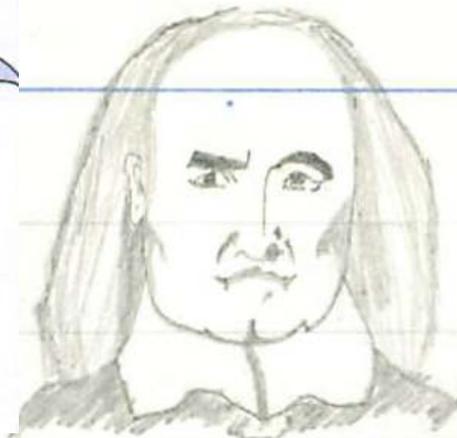
ホッブズ

vs

ロック

	ホッブズ	ロック
人間観	●人間は利己的動物	●人間は理性的動物
自然状態	●「万人の万人に対する闘争」	●平和な社会関係 ●自然権の保障は不完全
国家・社会	●絶対的権力に自然権を譲渡 ●自然状態からの脱却のための国家 ◆絶対主義を正当化	●人民が政府に自然権を信託 ●個人相互の契約による共同社会 ●政府に対する抵抗権有り ◆名誉革命を正当化

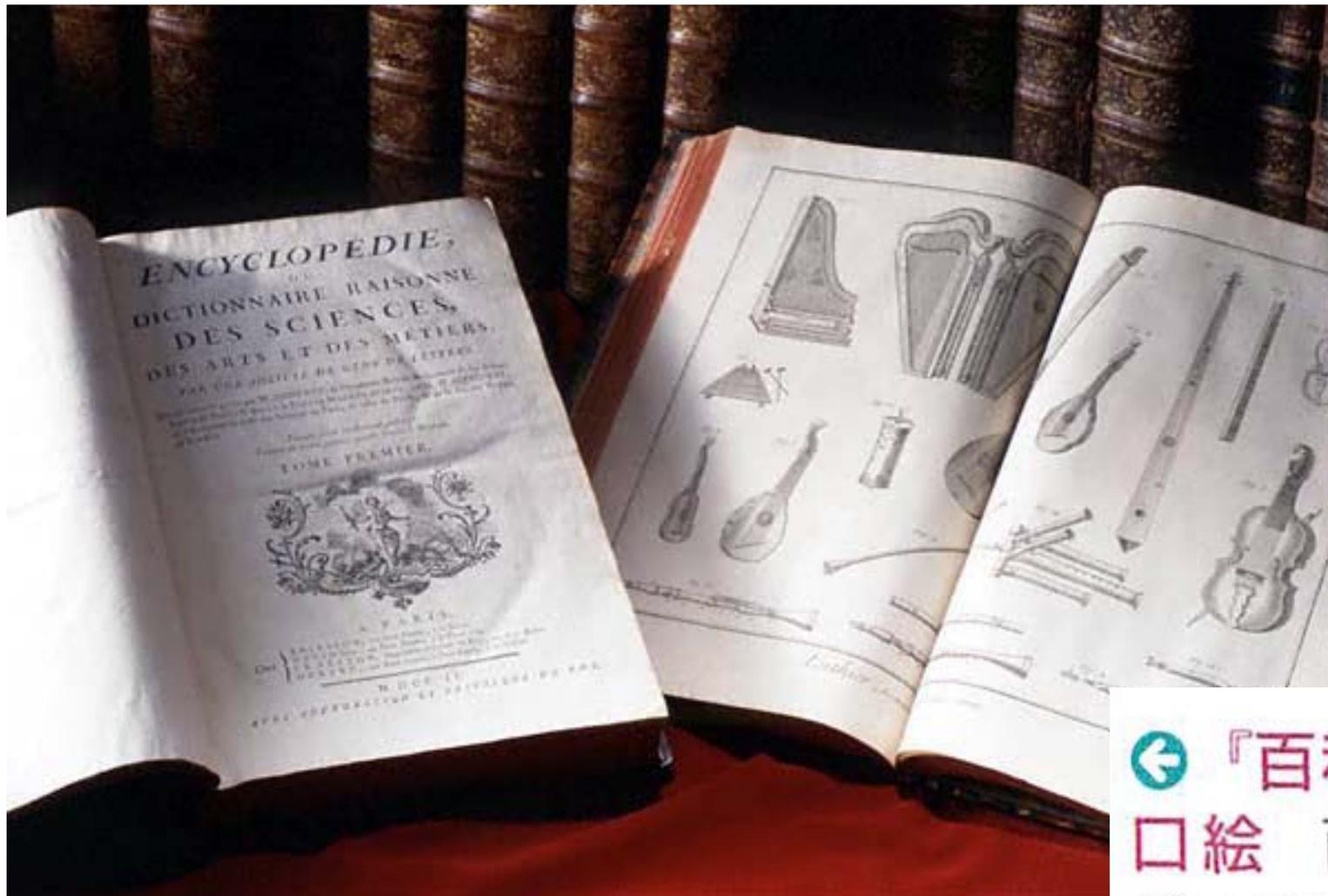
人間は互いに狼



クリック①・②:

顔の比較

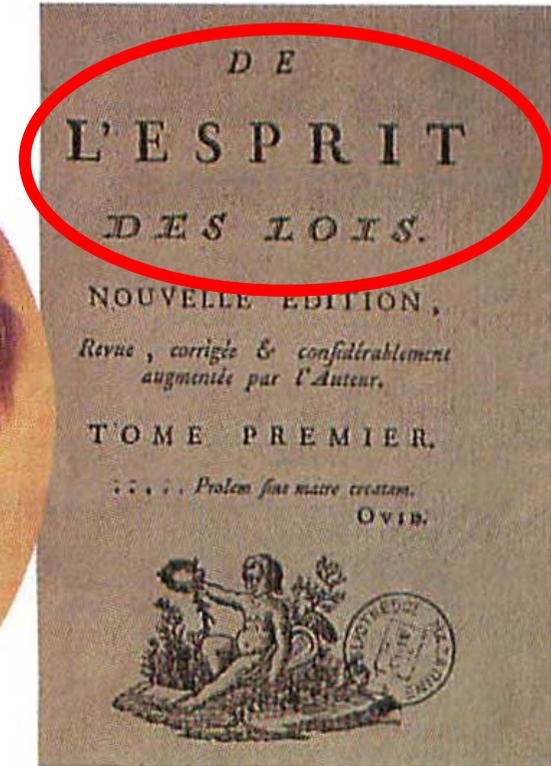
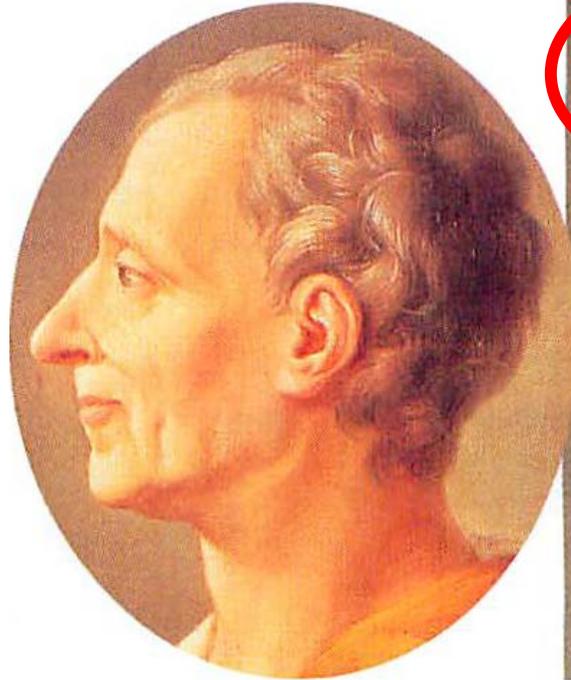
(高校時代のノートより)



クリックで、
デイドロとダランベールらが
編纂した『百科全書』
中表紙(左)と口絵(右)

← 『百科全書』の
口絵 百科全書は
デイドロやダランベ
ールらが編纂した科
学・芸術・技術に関
する合理的大辞典。

➡モンテスキュー(左)と『法の精神』の扉 1728年頃からのヨーロッパ旅行をへて、とりわけイギリスの議会政治を模範として三権分立を唱え、近代民主政の発達に大きな影響を与えた。



クリックで、
モンテスキューと著書
『法の精神』

自然に帰れ
(文明に毒されるな)

ルソー

- 自然な感情を持つ未発達な存在
- 完全に自由・平等であるが、文明社会がこれを破壊する
- 特殊意志(私利私欲を求める)ではなく、一般意志(共通利益を求める)への服従を相互に契約
- ◆ フランス革命に影響



※7

ルソーの社会契約説

クリック: 青年ルソーと名セリフ

※8 経済学的发展 クリック①～③

重商主義

- 絶対主義国家の経済政策
- 重金主義と貿易差額主義
- フランス型重商主義の行き詰まり(ルイ14世, コルベール)

重農主義

- 18世紀後半のフランス(ケネー・テュルゴーなど)
- 経済的自由放任主義(重商主義的な経済への国家干渉を拒否)
- 農業の生産性を重視

古典派経済学

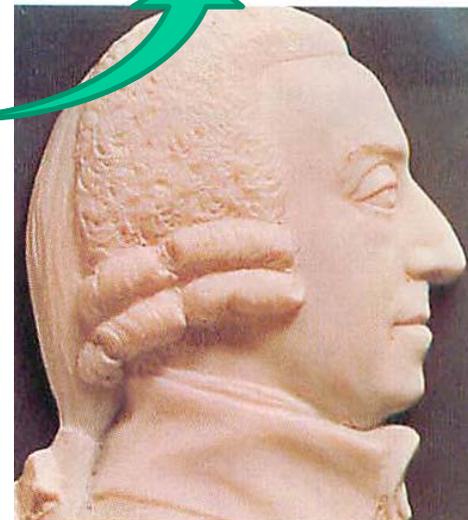
- アダム=スミスなど
レッゼ=フェール
- 自由放任主義を継承
- 富の源泉を労働に求め重農主義を批判
- 「神の見えざる手」^{invisible hand} → 自由な市場参入と私的利益の追求が、社会全体の利益も増幅させる



← コルベール



↑ ケネー



↑ アダム=スミス

授業No.92

T.Q.「ホッブズとロック、それぞれの社会契約説の違いとは？」

『リヴァイアサン』の著者ホッブズは、自然状態を「万人の万人に対する闘い」と考える社会契約説に基づいて、**国家主権**で**王権の絶対性**を主張した。一方『市民政府二論』の著者ロックは、**不法な統治への反抗の権利**(**反抗**＜**革命、抵抗**＞**権**)を擁護して同じ社会契約説で**国民主権**を保障することを結論とした。